

ひなたぼっこ通信

2020年
5月号

宅幼老所から

「春を詠む」

ご利用者様の詠んだ、春を感じる句ををご紹介します。

- 一、れんぎょうの すらり伸びたる 枝覆い 黄色輝く 花誇らしく
- 二、花桃は 育ち過ぎたり 窓越しに 眺め愛でるは 太い幹のみ
- 三、春風や 古木の枝垂れ 満開ぞ 枝揺らすとも 花を散らすな
- 四、花盛り さらさどうだん 笠重く 細身の枝が 風に耐えてる
- 五、見あぐれば 大山蓮華 葉の緑 陰にひそかに 蕾膨らむ

ケアハウスから

「大転換を」

新聞赤旗の15日付け「潮流」を読んで、胸のつかえが少しおりました。「危機の中でくつろぐ首相に私達の命を



託せるものか」と書いていました。思わず、「そうだ」と声に出していました。多くの人達が、明日の生活が成り立たないと不安がっている時に、自分だけ豊かな空間で、ペットの犬とくつろいでいいのでしょうか。

首相のこのメッセージを見て、励まされるという人がどれだけいるのでしょうか。反対に「何て国民の気持ちの分らない無神経な首相でしょう。」とあきれられる人が圧倒的なのではないでしょうか。

菅官房長官は、この動画に「いいね」をたくさんもらったと支持していました。本当に情けない。その上布マスクを2枚配るといふ、愚かな税金の無駄遣いはやめていただきたいものです。国民は、今や布マスクは手作りしています。

それより、もっと必要なことはPCR検査の充実です。医療体制の脆弱さも国民共通の認識になりつつあります。医療従事者の献身的な対応だけに頼ってはいけません。感染拡大は防げません。自粛と補償の一体化。徹底したPCR検査の実施。国民の命と健康を守るために政策の大転換を求めます。(た)

「春の思い出」2階

私は春が好きです。

ポカポカ陽気の中、可愛い服を着てお出掛けが出来る事、好きな桜やたんぽぽやチューリップが見られるからです。

それ以外にも、春になると小学生の頃を思い出

し懐かしい気持ちになります。小学生の頃、行事で学校に咲く桜の木の下で食べるお花見給食がありました。ポカポカ陽気で暖かく、外で食べる給食はいつも以上に美味しかったです。美味しかったな唐揚げ。。。お弁当に卵焼きも入っているのが私は好きです。

他にも小学校1年生の時に授業でたんぽぽのサラダ、つくしの天ぷらなど春の草花を使った料理を作りました。味も作り方も忘れてしまいました。が道端に咲いている花が料理になるなんて驚きでした。

登下校中、通学路に咲いている綿毛をこって「ふー」と息を吹きながら友人と歩いたりもしました。

春は思い出がいっぱいです。皆さんはこの季節が好きですか?ぜひ教えて下さい。(う)

グループホームから

「グループホームの窓より」1階

4月も下旬に差し掛かるころ、グループホームの南側の窓からは3本の桜の木が見えます。ご家族様の見舞・訪問もままならない状態のもとで、この景色は入居者様や我々スタッフの気持ちを華やかなものにしてくれます。

コロナウイルスの蔓延によって我々の生活は大きく変化しました。



毎日宅配で届けられる食材も、ウィルス除去のために玄関先で受け取り、その梱包段階での外側をアルコールで拭いてから開封するといった具合です。

芸能界でも志村けんさん、岡江久美子さんもあつという間に生命を奪われ、家族・近親者の誰一人にも看取られずに他界なさいました。誠に悲しく、寂しいことです。

さて、このコロナとの戦争、私達にその死生観を見つめ直すように迫っているのでしょうか？若くて一見健康そうに見える人でも、あつという間に重症になり死に至る。だから今こうして生きていることを有り・難い(滅多に無い)ことだと感謝すべきである。

そう思いながら桜を眺めます。「ああ、来年もこの花を愛でることが出来るものか？」

そうして一年過ぎると桜の木は、もうひとまわり大きくなって見事になっていくことでしょう！(たとえば自分が死んで居なくなったとしても！)

「フキノトウを採りに」2階

暖かくなり、フキノトウが出始めた頃、お天気のいい日に入居者の皆様と一緒にフキノトウを採りに出かけました。持ち帰って来ると、皆さん手際よくきれいにしてくださいませ。

フキ味噌やてんぷらにして、美味しくいただき



ました。

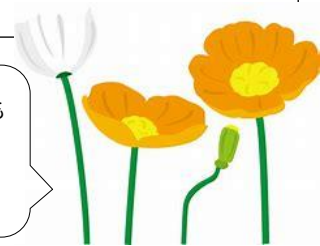
今、新型コロナウイルスの影響で外出は難しいですが、来年も皆さん元気でフキノトウを採りに行きましょね。

無料学習塾と100円食堂はお休み

新型コロナウイルスの影響で、5月も無料学習塾及び100円食堂はお休みします。

フードバンクのみを行います。電話等でお知らせくだされば、配達します。連絡をお待ちしています。

花はコロナ禍の中でも美しく咲いてくれます。何かしら励ますように。



放課後等デイサービスから

「新型コロナウイルスと子ども」

新型コロナウイルスの感染拡大が深刻になってきています。数えてみれば、3月2日から始まった「休校」は4月の一瞬の登校を挟んで、今日まで続いています。感染拡大を防ぐ特效薬がない今、できることは「人との接触を減らす」ということです。普通校も養護学校も、「預かり登校」や「分散登校」を実施していますが、3月に比べても利用されている子どもさんの数は少ないそうです。ひなたぼっこを利用していらっしゃる子ども達の数も

減りました。

保護者の方々そしておじいちゃんおばあちゃん達の奮闘が目に見えるようです。電話等で、保護者の方々に様子を伺っています。すると、「親子でクッキングしています。」「たまには一緒に近所を散歩しています。」「などと伝えてくださったって、ちょっと安心することもあります。しかし、一方で「学校に行きたい!」「ひなたぼっこに行きたい!」というお子さんも少なくないのです。そして、「兄弟で喧嘩しています。」「大変です!」「カオスです!」とおっしゃるお母さんもありました。

2ヶ月を超える長期戦で、しかも先行きが見えない不安が、子どもの中にストレスとして大きくなっていく様子が分かります。

子ども達は、友達や学習・活動を求めています。それは成長に欠かせないからです。「成長・発達」への要求が十分に保障されない今、何とかそれを乗り越える努力と、「コロナ後」を見据えるのも大人の仕事だと考える今日この頃です。



発行 社会福祉法人ひなたぼっこ

理事長 森 正明

T 399-0211

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-6661-6111

FAX 03-6661-6123